

(馬場に登って直ぐ歌う)

東^{アガリ}立ち雲^{ウツク}や、豊^{ユガフ}年^{トシ}しぬくゆい
遊^{アシ}びしぬくゆる、二十^{ハタ}歳^チ女^メ童^{ラビ}

首^{シユ}里^イ天^{テイ}加^カ那^ナ志^シ、百^{ムム}年^トまで
御^ウ万^{マン}人^{チユ}のまじり、拜^ウで^ガし^テで^ラ

金^チ武^ンうめかなし、乗^{スイ}み^セる^マ馬^ヤ
ちみ^ヤあ^ヤじ^ミぬ、真^{マコ}くる^カん^ジ

石^{イシ}投^ナ子^ツの石^ノ、大^ウ岩^ワなる^マで^ん
御^ウ掛^カけ^キぶ^セ召^メれ、我^ワ御^ウ主^ヌ加^カ那^ナ志^シ

今^チ日^ユの誇^フら^シや^ヤ、な^ホに^ギな^タて^テ
ち^ブで^をる^花の、ち^ユち^やた^ぐと

殿^{テン}内^{ノウ}から屋^{ウチ}敷^シ、風^フ水^{スイ}ま^でう^ちや^て
耳^{ミミ}ん^かな^て、百^{ヒャク}歳^{サイ}ま^でん

く^まぬ^二所^{トコロ}や、か^ふな^人が^やゆ^ら
錢^{ゼン}ま^るち^くさ^て、御^ウ子^コ前^{マエ}な^ち

六^{ロク}十^{ジュウ}重^ヘび^りば、百^{ヒャク}二^ニ十^{ジュウ}の^御年^{トシ}
う^かき^ぶせ^みそ^り、我^ワ御^ウ主^ヌが^なし

七^{ナナ}の^兄弟^{ケイテイ}す^りて、す^んぎ^なし^めて^い
出^デじ^立つ^る時^{トキ}や、さ^びや^ねら^ん

(一番旗を貫口に立てる時に歌う)

御^ウ城^{シヤウ}ぬ^御庭^{テイ}に、御^ウ拜^{ヘイ}領^{レイ}旗^{ハタ}立^てて
北^{キツ}ぬ^星か^みて、拜^ウで^しで^ら

拜^ウで^ぬか^りら^ん、首^{シユ}里^イ天^{テイ}加^カ那^ナ志^シ
遊^ウで^ぬか^りら^ん、御^ウ茶^{チャ}屋^{ウチ}御^ウ殿^{テン}

今^{イマ}年^{ネン}む^ずく^いや、あ^んち^ゆら^さゆ^かて
倉^{クラ}に^積余^ユち、ま^じん^さび^ら

豊^{トウ}年^{ネン}す^る年^{ネン}や、想^{ソウ}く^とん^ねら^ん
わ^みや^友人^{トモ}ち^りて、遊^ウで^わか^ら

御^ウ代^{ダイ}ん^改ま^て、原^{ハラ}々^{ハル}ん^美ら^さき
原^{ハラ}人^{ニン}ぬ^歌ぬ、声^{コエ}ぬ^美ら^さき

津^ツ嘉^カ山^{サン}ぬ^しま^や、風^フ水^{スイ}か^らう^ちや^て
ち^かし^森く^さた、馬^{ウマ}場^{バウ}前^{マエ}な^ち

津^ツ嘉^カ山^{サン}ぬ^しま^や、だ^んじ^ゆと^ゆま^りる
す^だち^若者^{シヤク}の、と^なみ^づら^さき

明^{アカ}い^{さん}ば^しる、ち^ち開^アけ^て見^えれ^ば
庭^{ニワ}の^白菊^{キク}の、咲^サる^美ら^さき

里^リが^庭花^{ハナ}や、も^の言^イらん^びけ^い
大^ヤ和^マう^ちん^かて、笑^ヤら^て咲^サき

うち笑らて咲る、庭の白菊や
見しらよい一枝、むやいくいらな

この殿内^{トクンチ}うちに、菊の花いちて
枝見りば白銀^{オシギ}、芯^{シン}や黄金^{クワガニ}

赤田門のうしく、枝持ちぬ美らさ
城女童の、身持ち美らさ

赤田すん殿内、黄金ドールさぎて
うりが明がりば、みるく豊年

玉黄金親や、年や寄ていめい
糸に玉はきて、若くなさな

糸に玉はきて、若くならりゆみ
ただしりみそうり、夢^{イミ}の浮世

遊びぶさあてん、まどに遊ばりみ
むじくいぬ御願、やてる遊ぶ

(大綱ちな引ちえ)

綱引ちえんでいやいよ、気ん立つなわらび
綱や作物の、お願だてる

(綱を引き終わって歌う)

綱^{チナ}ん引ち勝ち^{マカ}、腕^{マカ}ん引ち勝ち
うしる軽々と、遊でわから

勝ちよらわゆてく、負きたらはすく
わした女童や、くまにいめさ

西^{イリ}の女童^{ミヤラビ}ん、東女童ん

互にちむすりて、遊でわから

西と東とや、垣どひぎみゆる

ぬがし友人ぬちやや、御じむ変る

遊びぶさあてん、まどに遊ばりみ

むじくいぬ御願、やてる遊ぶ

(大綱綱引ちやてる)

綱引ちえんでいやいよ

気ん立つなわらび

綱や作物の、お願だてる

津嘉山(東)

玉那覇(西)女童、勢イチヌイのゆたさる

綱引ち勝アキちやさき

サツサ綱ん引き勝ち、腕ん引き勝ち
うしる軽々と、遊でわから

今日遊ばんむんぬな、いち遊ぶが

ワン一人チヌイサー二十人ガイー

サーツサーツサ、シタイ女童

ミダリンナ、サーツサーツサナマヌグトステイ、

勢イチヌいヒチタテサーツ、サーツサ、

うひなうざしちに、うすばゆで拝がで

わどやりばわどい、拝でしでら

豊なる御代や、国やいちまでん

歌と三味線と、歌声びけん

原のくぼたまる、雨や降てたまる

ふらぬよいたまる、くまぬ殿内

でちやようしちりて、木綿花アツクイむいが

花や露かみて、むいやならん

てんさぐの花や、爪先に染みめて

親のよしごとや、ちむに染みり

親のよし言や、胸の上の宝

耳ん目んあきて、胸に染みり

天の群星や、ゆみばゆまりゆい

親のよし言や、ゆみんならん

夜走ハシす船や、北ニヌの星フツみあて

わんなちえる親や、わんどみあて

東り明アカがれば、しみ習ナレが行イちゆい

かしら結てたぼれ、わ親がなし

天の群星や、んなが上るてゆる

黄金三ツ星や、吾上るてゆる

初原に出じて、ぐさち花見りば

花や咲ち美らさ、実ナレやしじく

かかんちゆくなち、どじん汗はらち

遊ぶたるわみぬ、大人なとき

大人なたんてい、遊びわしりゆみ

遊びなの片手、孫ウマツ片手

遊び庭の草葉、たがさでくなちやが

遊びたるわみぬ、さだくなちやさき

くばの葉どやしが、持ちなしぬゆたき
暑さしだまする、玉のうちわ

あたいをのなかぐ、ましらひちさらち
大和める兄の、どんすばかま

大和める兄や、なまやぬがみせる
しじり筆めなち、沖繩すがい

大和紅型と、沖繩やしらみと
うち重び重び、わがる着ゆる

打ちならしならし、四ツ竹のならし
ならす四ツ竹の、音のすらさ

ならす四ツ竹や、音にまじりてる
親子みあさあてる、うすば寄たさ

とりの伊平屋岳や、うちやがてる見ゆる
遊びうちやがゆる、わ玉黄金

千年平松の、緑葉の下に
亀が歌すりば、鶴やめかた

にわとりの卵、二十日ゆにしでて
わみや御主拝がで、今どしでる

からたきとまたき、ふしどひぎ見ゆる
御男やとわみや、ぬひぎ見ゆが

大かがんひぎや、ゆいもどいもどい
わがゆゆる年や、かにがあゆら

七ゆみと八てん、かしかきてうちよて
わん女やとて、ゆだんさびみ

かしかきてうちよて、ぬちまちや知らん
たんで親がなし、ならちたぼり

城ひぎうびや、いちまでんはゆい
うかきぶせみそり、拝がでしでら

かちの葉のちゆや、上いてだまつさ
我みやたるまつが、豊年まつさ

(式を終り一番旗を持ち帰る時歌う)

月ナガミん眺ミたい、でちやよ立ちわから
わかて面影ウムカジの、立たばちやすが

面影ぬでんし、ただなうちくりば
わしりゆるひまぬ、あいがさびら

わかりてや行つゝい、ぬさい情すが
歌と三味線と、うりど情

あぬよ前ぬしじ、下い夏雲

ナントモナランヨ

首里がはやしや、シトリトテンサ

ヨーイネヨ、マミカラヨーイネヨ

はいちやてたぼり

遊どて暮する浮世かや世間かや

アネチヨン、サンムヌ

どや持つみ、どや持たに

遊びなりりば、わかいぐりきみ

ないつみ女童ナウラビ、今日や遊ウだい女童ウた

明日や芋堀ウいが、芋や堀ウいなざき、

遊ウでわから

一九四八年イに、旗ハタん新ニまで
御ミ拝ヒ領リョウ旗ハタ写ウちち、仕シ立タてあぎて